

## 平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学 校 名	三次市立みらさか小学校		
学校長氏名	今井 敏雄	栄養教諭氏名	杉原 貴代美
職 員 数	21名	児童・生徒数	168名

## 1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ・多くの児童は、給食の時間を楽しみにしており、苦手な食べもののある児童もいるが、時間内に食べきれるように努力していて、全体的に残菜はほとんどない。また、給食内容が、自宅からごはんを持参する「補食給食」のため、児童の半数以上は適切な量のごはんを持ってこることができていない。中には意図的に持ってこない児童も見かけられる。
- ・食事のマナーについては、「正しい姿勢」で食事をするために「正しいはしの持ち方」ができることを目指して、取り組んできているが改善がなかなか進んでいないのが現状である。
- ・教育活動全体で食育を計画的に進めていくためには、年間指導計画の中に具体的に食育の単元を取り入れていく必要があり、教務部や担任との連携の充実が課題となっている。

## 2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・食器破損事故（破損食器数）を減らす。（前年度比較で10%減少）
- ・正しくはしを持ち、使える児童を増やす。（正しくできる児童5%上昇）
- ・食事前後および食器受渡時のあいさつができる児童を増やす。

## 3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 食器事故0大作戦

- ・食器事故0を目指すために、各学級で作戦をたて、1年間を通して食器事故をなくす取組を行った。各月末には保健給食委員会の児童が、食器事故0を達成できた学級の表彰を行い、1階ホールにはその結果を掲示している。

【取組2】（テーマ） 食事のマナーの定着を図る取組

- ・「正しい姿勢」で食事ができるために、年間を通して、授業、給食時間に姿勢を正すことを指導した。
- ・「はしの持ち方」について調査し、全校朝会や給食時間、学級活動などの時間に指導した。
- ・食事のマナーについては、児童の興味や関心をもつよう1階の食育掲示板に掲示した。

【取組3】（テーマ） 食育について理解と関心を高める取組

- ・「ごはんを食べよう」をテーマにPTA研修会をもつ。三良坂調理場では、ごはんを持参する「補食給食」であること、児童が家庭から持ってきているごはんの量が完全給食の学校などに比べて少ないこと、また、ごはんが主食として大切な役割があることなどを簡単な実習を踏まえて話をした。
- ・食育参観日を設け、「食」について、児童と保護者が一緒に学び、関心を高める授業を行った。

#### 4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

・例年10月の「みよしふるさとランチの日」と合わせて実施していることもあり、ひろしま給食統一メニューの決定の後、市教育委員会、市内の栄養教諭、栄養職員が連携し、みよしふるさとランチの献立を立案している。献立の立案にあたっては、JA女性部の方たちと共催で実施している地元の野菜を使った料理教室で一緒に調理していることから、JA女性部の方にも「ひろしま給食」について、関心をもってもらうことができています。

・今年度は、「夏休み親子クッキング」を開催し、「ひろしま給食」を親子で調理実習し、関心を高める取組を行った。



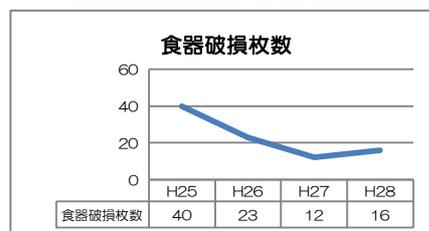
・「みらさか食通信」に「ひろしま給食」について掲載し、保護者に関心をもっていただくよう取り組んだほか、9月に実施した給食試食会では「ひろしま給食」メニューを食べていただき、「ひろしま給食」への理解と協力を呼びかけた。



#### 5 取組に対する成果と課題

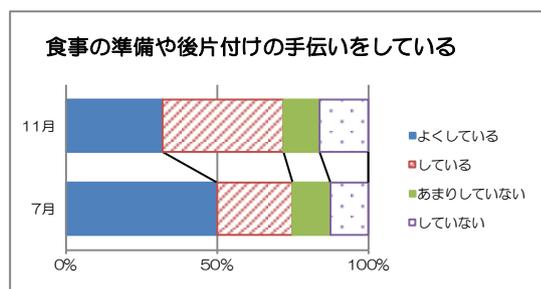
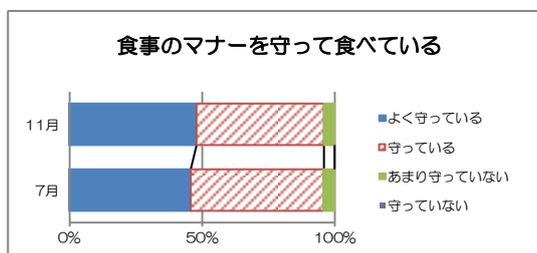
##### 【成果】

- ・学級での取組目標の設定や児童一人一人が気を配ることで、食器の破損は減少してきている。
- ・食器やはしの持ち方、よい姿勢で食べるなど食事のマナーを守って食べようとする児童が増えている。



##### 【課題】

- ・児童は、食べることに興味をもって、給食を残さず食べているが、「食に関する実態調査」の結果から見ると、「食事の準備や後かたづけの手伝いをしている。」



「家族の人と一緒にまたは、一人で料理を作ったりすることがある。」と答えた児童が7月と11月調査を比べて減少していることをみると、家庭での手伝いや料理をすることが日常的ではないということが分かる。学校での学びや体験を家庭でも実践できるような取組が必要である。

#### 6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・給食時間をはじめ、学級活動などさまざまな機会をつくり、食事の姿勢や正しいはしの持ち方など食事マナーの定着と食事の内容を考え、料理ができるなど豊かな「食」の実践に向けて取り組む。また、「食」通信を充実させ、家庭との連携をはかる。
- ・教科等における食に関する指導を充実させるために、具体的な指導計画を作成し、学級担任等と密に連携が図れるよう手立てを考える。
- ・地元の生産者の方に支えられている自分たちの食について関心を高めるため、生産者の方々や給食に関わる人との交流の場をもつ。